

整形外科 後期研修カリキュラム

1. 診療科の特色

トヨタ記念病院の整形外科では交通事故、労災事故による外傷や、高齢者の骨折に24時間救急体制で対応しています。またスポーツによる膝関節障害は特に専門的治療を行っています。その関節リウマチ、股関節、脊椎、肩関節、手の外科なども専門診療を行っています。外来は紹介外来（病院・予約制）救急外来（病院）、一般外来（外来棟）の3部署に分かれて業務を行っています。

スポーツ外傷、特に膝関節は他院からの紹介も多く、膝前十字靭帯再建術は術後早期にリハビリテーションを開始し良好な成績をおさめています。変形性関節症や関節リウマチで日常生活の障害が高度であれば人工関節置換術を行っています。脊椎分野では頸髄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症や脊椎外傷では保存的治療のほか手術治療を行っています。高齢者の大腿骨頸部骨折は早期離床を目的に手術治療を行っています。連携パスを利用してリハビリ病院と協力して治療にあたっています。

代表的な手術、検査ではクリニカルパスを作成し運用しています。また、診療ガイドラインや手術の説明・同意書を作成し、安全で分かりやすい医療を提供できるように努めています。

2. 研修期間

大学卒業後2年間の前期研修を終了した後、3年間後期研修をおこなう。

3. 目標

【一般目標：GIO】

すべての臨床医に求められる基本的診察に必要な知識、技能、態度を修得する。また整形外科を受診する患者様に安全で信頼されうる医療を提供するために、整形外科診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的で全人的な診療能力を修得する。

【行動目標：SBO】

- 1 チーム医療を理解し他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとることができる。
- 1 整形外科診療に必要な骨、関節、神経、腱などの基礎的知識に習熟し、臨床応用できる。
- 2 整形外科診療に必要な検査、処置、麻酔手技に習熟し、適切に実施できる。
- 3 標準的な整形外科の手術を適切に実施できる。
- 4 基本的な全身管理（全身麻酔、術後管理を含む）を行うことができる。
- 6 患者にとって有効な整形外科リハビリテーションを指示することができる。
- 5 患者および患者家族の社会的、心理的背景を考慮した適切な説明を行うことができる。
- 6 医療保険、福祉制度、介護保険等の医療システムを理解し適応できる。
- 7 整形外科専門医資格の認定に必要とされる学会発表、論文作成などの要件を満たす。

後期研修1年目での研修の行動目標

救急医療：運動器救急疾患、外傷に対応できる基本的診察能力を修得する。

- 1 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
- 2 骨折に伴う全身的、局所的症状を述べることができる。
- 3 神経、血管、筋腱損傷の症状を述べることができる。
- 4 脊髄損傷の症状を述べることができる。
- 5 多発外傷の重症度を判断できる。
- 6 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
- 7 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
- 8 神経、血管、筋腱損傷を判断できる。
- 9 神経学的所見によって麻痺の高位を判断できる。
- 10 骨関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

慢性疾患：適正な診断を行うために必要な運動器疾患の重要性と特殊性について理解する。

- 1 変性疾患を理解してその自然経過と病態を理解できる。
- 2 骨、軟骨、神経の X 線像、MRI 画像の解釈ができる。
- 3 骨、関節、脊椎疾患の初期治療方針を立てることができる。
- 4 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの病態を理解できる。
- 5 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで実施できる。
- 6 関節造影、脊髄造影検査を指導医のもとで実施できる。
- 7 理学療法の処方が理解できる。
- 8 後療法の重要性を理解し適切に実施できる。
- 9 杖とコルセットの装具処方が適切にできる。
- 10 社会的背景、心理的背景に配慮して病歴聴取や説明ができる。
- 11 クリニカルパスを理解し適切に運用できる。
- 12 看護師、理学療法士、医療福祉士と連携して問題点を検討できる。

基本手技：運動器疾患、外傷の正確な診断と安全な治療を行うためその基本手技を修得する。

- 1 運動器疾患に必要な身体計測（ROM、MMT、SMD、四肢周囲径）ができる。
- 2 骨、関節の所見が取れ評価できる。
- 3 神経学的所見が取れ評価できる。
- 4 適切な X 線撮影の指示ができる。
- 5 一般的な診断と初期治療ができる。
- 6 理学療法の指示ができる。
- 7 清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺、小手術、牽引ができる。
- 8 手術の必要性、概要、侵襲度の説明ができる。

医療記録：運動器疾患に対する理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。

- 1 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
- 2 運動器疾患の身体所見が記載できる。
- 3 検査結果の記載ができる。
- 4 症状、経過の記載ができる。
- 5 リハビリや装具の処方、記録ができる。
- 6 検査、治療のインフォームドコンセントの内容を記載できる。
- 7 紹介状、依頼状を正確に書くことができる。
- 8 診断書の種類と内容が理解できる。

4. 方略

- 1 外来、入院患者を主治医として担当し、検査、処置、診断、治療を行う。
- 2 術者または手術助手として手術を担当する。
- 3 指導医、専門医のもと救急業務、全身麻酔、集中治療、全身管理を担当する。
- 4 症例検討会で症例を提示し討議を行う。
- 5 学会発表、論文発表を行う。

【業務週間スケジュール・例】

	月	火	水	木	金
早朝 8:00	検討会	検討会、セミナー	抄読会	検討会	検討会、セミナー
午前	外来	回診	手術	外来	手術
午後	救急	手術	手術	外来	手術
夕方 17:00				リハ検討会 病棟検討会	

5. 評価

項目	評価者	時期	評価法
担当患者疾患名	自己、指導医	半年毎	自己記録
経験した手術手技	自己、指導医	半年毎	自己記録
検討会での症例提示	自己、指導者	毎週	口頭、カルテ記載
学会、論文発表	指導者	毎年	自己記録

【別に定める事項】

- 1 後期研修 1 年目での行動目標
- 2 経験すべき整形外科疾患と外傷
- 3 執刀医として経験すべき手術手技
- 4 全身麻酔患者数
- 5 目標とすべき学会発表回数：年 2 回
- 6 目標とすべき論文発表回数：年 1 篇

主な学会、研究会

全国レベルの学会は年 2 回参加（内 1 回は発表）

県内の研究会は原則参加（年 1 回以上は発表）

- 1 日本整形外科学会
- 2 中部日本整形外科災害外科学会（年 2 回）
- 3 日本整形外科スポーツ医学会
- 4 日本膝関節学会
- 5 日本関節鏡学会
- 6 日本骨折治療学会
- 7 日本リウマチ学会
- 8 整形外科集談会東海地方会（年 4 回）
- 9 東海関節鏡研究会
- 10 東海関節外科研究会（年 2 回）
- 11 東海足と靴の研究会
- 12 東海スポーツ障害研究会

院外の勉強会

- 1 三整会（年 4 回）
- 2 三河関節外科懇話会（年 2 回）
- 3 名古屋大学整形外科合同カンファレンス（毎月）
- 4 東海骨・関節疾患研究会（年 1 回）
- 5 鶴舞整形外科症例検討会（年 1 回）
- 6 豊田加茂医学会（年 1 回）
- 7 三河骨軟部腫瘍研究会（年 1 回）